

タイの大気汚染問題について

タイの大気汚染問題は、急激な経済成長と共に深刻化しています。2025 年 1 月 22 日、バンコクでは PM2.5（微小粒子状物質）の濃度が基準値を超え、児童らの健康保護のため、市内の 350 校以上の学校が休校措置を取る事態となりました。今回は、タイの大気汚染問題の現状についてレポートします。

1. 大気汚染の発生原因

- (1) 大気汚染とは、自然や人工的に放出された有害物質が大気中に存在し、その量が自然の浄化能力を超えることで発生します。汚染の原因には、自然現象（黄砂や火山噴火）と人間の活動（工場や自動車の排気ガス、農村での野焼きなど）があり、特に後者がタイにおける主な原因とされています。
- (2) 現在、大気汚染は人口増加や経済成長と相まって、世界（特に発展途上国）において深刻な問題とされ、SDGs（持続可能な開発目標）目標 3：「すべての人に健康と福祉を」の中でも言及されています。

2. タイの大気汚染の状況

- (1) タイで大気汚染が最も深刻と言われているのが首都バンコクです。スイスに拠点を置く空気清浄機メーカー・IQAir 社の調査に依れば、2025 年 1 月 24 日現地時間午前 11 時時点でバンコクは世界で 8 番目に大気汚染がひどい都市となりました。同日の市内 PM2.5 濃度は 1 m³あたり 108 μ gに達し、これは世界保健機関ガイドラインの 21.6 倍の数値となっています（参考：1 月 24 日 東京 15.4 μ g）。
- (2) バンコクは、タイの政治・経済の中心地であり、交通渋滞や工場排気が大気汚染の大きな原因です。特に乾季（11～2 月頃）になると降雨がほぼなくなるため、汚染物質が大気中に滞留しやすくなり、特に PM2.5 濃度が高い日は、晴れた日であっても霧がかかっているような光景が見られます。
- (3) 観光地として有名な北部チェンマイも、大気汚染がひどい地域です。バンコクと違い、主な原因は乾季に行われる野焼きです。タイ政府は野焼きを減らす施策を打っていますが、国境を接するラオスやミャンマー等の周辺国で野焼きが続き、汚染レベルは依然として高い状況です。

遠方ビル群が霞んで見えるバンコク市内の様子
 （2025 年 1 月 24 日 筆者オフィスより撮影）



3. タイ政府の大気汚染対策について

- (1) タイ政府は、大気汚染対策として様々な措置を講じています。首都バンコクでは、渋滞解消のため 2025 年 1 月 25 日～31 日迄の間、高架鉄道（BTS）・地下鉄（MRT）・路線バスの全路線が無料となり、在宅勤務が推奨されています。また、マスクの無料配布も行われる予定です。
- (2) 2024 年 3 月には近隣国での野焼き抑制策として、焼き畑農業の主要産品であるトウモロコシの輸入を禁止する方針が発表されています。また、同年 4 月には北部に人工降雨を行う専用の航空機を配備し、雨を降らせる取り組みも進めています。
- (3) その他「Air4Thai」と呼ばれるアプリを開発し、市民が地域の大気の状態を把握できるようにしました。

4. その他

- (1) タイを含む ASEAN 諸国では経済成長の代償として、大気汚染のような各種社会課題が顕在化しています。
- (2) タイ政府は BCG（バイオ、循環型、グリーン）経済を推進しており、今後日系含む外資企業への環境投資への期待が強くなることが予想されます。

以 上

本情報は、弊行が信頼できるとされる情報ソースから入手した情報、データをもとに作成しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。お取引などの最終判断は、お客さまご自身で行っていただきますようお願い申し上げます。